

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | スタッフにより築いた理念は、誰にでもわかりやすく簡潔な言葉を方言もつかい掲げている。「つれもて」も文言には入居者、スタッフ、家族そして地域等とつながりをもって暮らしていこうという想いをもって作成している。 | | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 自分たちで作成した理念を常、目につく場所に掲げることで全員が意識できるようにしている。また、日々のケアの中で迷いや困難事例に対処する中で、この理念に基づくケアを考え提供出来るよう努力している。 | | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 家族の方々には家族会を通じてや又運営推進会議のメンバーの方には会議の中で理解していただく機会は設けているが、それ以上の働きかけは機関紙程度に留まっているので不十分である。 | ○ | 認知症の理解をしていただくためのサポーター講座を開催したりは昨年より実施しているが、開催頻度も単発であるので地域の方々に実践している内容を伝える機会をもっと作っていきようにしたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 日常的な散歩や買い物を通じて、近隣の方々と挨拶を交わしたりは行なってはいるが、構造上5階に立地しているなど近所の方々がグループホームと認識し難い環境である。よって、近所の方が訪問されるといったことがない。 | ○ | 今後、グループホームということを認知してもらうためのイベントや広報活動を実施していきたいと考えている。 |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の行事に参加したり、法人を含めた盆踊りといった大きな行事の中で交流に努めてはいるが、入居者が直接的に触れ合うなどの交流機会までには至っていない。 | ○ | 今後、自治会や学校等との交流が出来るよう、また一層地域行事にも積極的に参加し、入居者が地域と直接的に触れ合う機会を増やしていきたい。 |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------|
| 6 | <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> | <p>管理者は地域等での研修において、実践内容を含めサポーター養成講座や専門職の研修で認知症ケアの啓発に取り組んでおり、また、県が実施する研修での企画・講師・および実習受け入れにも協力している。</p> | ○ | <p>より地域の密着した貢献として、地域住民を対象とした啓発活動を実践していきたい。</p> |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> | <p>スタッフ全員で取り組み、課題を明確にし改善できる点を話し合い実現できるように日々の実践に努めている。</p> | | |
| 8 | <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>会議においては現状報告や課題となっていることを含め提示し意見をいただいたり、スライドを活用しケアの内容やスタッフの日々の努力を理解していただけるような構成を考え実施している。</p> | | |
| 9 | <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>市担当者とケア向上に関して意見交換する場がなく、連携は不十分である。地域密着以前から県担当者とは実践者研修を含め、認知症ケアの向上について連携を図っている。</p> | ○ | <p>市町村の認識にも温度差があるので、事業所枠を超えて理解を深めていく努力をしていきたい。(県グループホーム連絡会と連携しながら)</p> |
| 10 | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> | <p>スタッフにおいては権利擁護に関する研修機会が出来ておらず、事業所単位では難しく、また、法人内においても実施されていない。実情、後見人制度を活用している利用者はおられるが、ケアの現場においては意識されていないのが現状である。</p> | ○ | <p>自主的な勉強会を開催するなどして、認知症ケアに関わる多くの知識を学ぶ機会を増やしていきたい。</p> |
| 11 | <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>上記同様、各論に関する研修機会が不足している。個々のニーズに沿ってケアを提供しているが、知識を深め、無意識にそうしたことが起こらないようにしていくことが望まれる。</p> | ○ | <p>自主的な勉強会を開催するなどして、認知症ケアに関わる多くの知識を学ぶ機会を増やしていきたい。</p> |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には入居後予測されることも含め(リスク・心身の低下・退去要件等)当事業所が取り組んでいるケアの内容を理解していただくよう説明し納得いく契約の締結に努めている。 | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の言動から、その想いを汲み取る努力を行い、また訴えのあることに関してはスタッフが共有し実現出来るよう工夫している。外部から聞き取りといったことは出来ていないのが現状。 | ○ | 運営推進会議を活かし、利用者意見の反映する機会も設けていくことも必要と考える。 |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族が面会時には常に日頃の様子や健康状態について報告しており、また、金銭をお預かりしている方については適時、出納帳と領収証を合わせて提示し説明している。 | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を設置し、年に2回運営に関して報告する機会を設けている。その際、家族さんからの意見を聴衆し反映する場としている。 | ○ | 家族だけで話し合う場を設けていくことも必要だと思うので、次回には、そうした時間を作りたい。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングや個別面談などの機会をもって、把握しようとはしているがスタッフ個々に充足感は異なっている。運営者や管理者はそれぞれに工夫はしているが、現場が満足いく体制にはなっていないのは否めない。 | ○ | 運営者も含め、現場の声を聞く機会を増やしていく事が重要である。管理者として、そのパイプを強化していけるよう努めていきたい。 |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | スタッフの入れ替わりや疾病等によって人員が充足しておらず不安定な状態である。そのため、限られた人員で管理者を含めた調整を行なっていかななくてはならない。 | ○ | 柔軟な対応が出来るよう、人員にゆとりをもった運営が出来ることが望ましいが現在の人手不足の状況では難しいかもしれない。 |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ダメージを防ぐよう異動や離職について手を打ってはいるが、人手不足により引継ぎが上手く行なえなかったり、スタッフが落ち着かない状況がここ1年続いてしまった。 | ○ | 就業環境を整えると共に、スタッフがチームとしてケアに従事していけるようモチベーションを高めていける取り組みを単一事業所だけでなく法人として取り組んでいけるようにしていきたい。 |

グループホーム喜成会

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>内部および外部研修に参加出来るよう機会を設けてはいるが、法人内において段階的に育成していくための体制が整っていない。そのため事業所内におけるOJTが重要であるが、人員不足により十分な指導が出来ていない。</p> | <p>○</p> <p>法人内におけるスーパーバイズを実施していけるよう又、職場内研修についても委員会を設置し現場に即した研修を実施するよう現在検討中である。</p> |
| 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>グループホーム連絡会に加盟しており、その中での研修会や意見交換や相互実習といったことに参加し交流が出来るよう努めている。</p> | |
| 21 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>日々の中で発生する小さなストレスを把握するに至っておらず、休憩時間もとれないこともあり、ストレス軽減に向けた取り組みは十分に行なわれてはいない。</p> | <p>○</p> <p>法人内において中立な立場の人を配置する事により、日頃からスタッフの声を聞いたり相談できるスーパーバイザーを配置できるよう現在検討中である。</p> |
| 22 | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>人事考課や資格手当等実施してはいるが、雇用形態などの就労環境に配慮されていない点もあり、個々のスタッフが向上心をもって働き続けられるようになっていないことがある。</p> | <p>○</p> |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>本人の状態把握には事前に面談し、アセスメントを行いこれまでの生活習慣等についても介護者を含め、本人に関わる関係者からも情報を集め対応している。</p> | |
| 24 | <p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>入居を決めるまでのご家族の苦悩を理解したうえで、本人を含めたご家族の自立を重点とし、新たな関係性が構築出来るよう話し合いをしている。</p> | |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に本人の状態や家族の状況等を確認しながら、現状出来る支援の方法(他のサービス利用等)を提案しながら、両者にとってよい方法を一緒に考えるよう努めている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 開設当初はそうした配慮出来ていなかったが、近年はサービス開始前の事前利用をしてもらい家族や本人に安心感をもっといただく工夫をしたり、それが出来ない時には本人と家族に管理者が出向いて入居に関する不安等を解消する機会を設けるようにしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 当事業所理念はこの点に関して力を入れており、個々の認知力の違いがある中でも、入居者間の人間関係を大切に感情をしっかりと受け止めスタッフと共に寄り添っていきけるよう日々のケアで努力している。しかし、スタッフ主体になってきていることも最近見受けられる。 | ○ | 事業所理念を振り返りながら、個々の想いや声を汲み取り入居者視点でケアを提供出来るよう、意見交換や勉強会を実施していきたい。 |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には最近の暮らしぶりを報告したり、必要に応じては家族の支援も受けながら入居者を共に支援していきけるよう働きかけも行なっている。また、家族会においてはご家族も準備等に参加していただき一緒につくる楽しみを持っていただく工夫をしている。(入居年数や家族関係等によって家族間の誤差は多少あり) | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 前項目のよう情報共有に努め、外出や外泊の支援やご家族の事情によっては面会等における送迎を行なうなど事業所として本人と家族のよりよい関係づくりに可能な限り努めている。また、家族会を通じて花見や遠足に参加してもらい、家族単位の時間を設けるなど工夫はしている。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前から利用していた理美容院へ出掛けるといったことはしているが馴染みの人や場所との関係維持に関しては十分な取り組みが出来ていないのが現実である。 | ○ | 現状では具体的な案がないが、個々の想いがつながっていくような支援が出来るといいと思う。 |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 事業所理念から入居者の関係づくりには大切にしている。相性など関係づくりには配慮しなければなりません、共同生活という意味合いを理解しながら、助け合いや思いやる心を持てるような環境づくりをしている。 | | |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 契約終了後も今後の相談や医療機関へお見舞い等行ったり、お孫さんのボランティアを受け入れたりはしたが、現実的には断ち切れていっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のかかわりの中で個々の想いを汲み取るよう心掛けている。(言葉の意味やその裏側、行動や表情などサインを感じ取ること)また、センター方式をアセスメントツールとして活用し、C-1-2のシートを各スタッフが個々に記入するようにしている。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式の記入シートをご家族に説明しバックグラウンドを把握することでケアに反映する意図をご理解いただき記入してもらったり、サービス開始後も状況に応じ、関連すると思われる情報収集に努めている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | センター方式の「できること・できないことシート」を活用しながら、個々の力を引き出したり、出来なくなってきたことを早く察知し支援の方法を検討するなど努力している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人の言葉や想いを反映し、介護計画に盛り込み暮らしを実感出来る支援や安心出来る環境づくりと状況や必要性に応じた計画作成に心掛けている。また家族の意向も事前に聴くようにしては入るが聞き取りが不十分な面もある。 | ○ | ご家族の意見をもっと知り、介護計画に反映していけるような工夫をしていきたい。 |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 心身の状態変化等によって計画見直しが必要性があれば、スタッフ間およびご家族と話し合い変更しているが、人手や時間の調整がつかず、ケースバイケースの対処になってしまうこともある。 | ○ | ケアプランの実践からスタッフ間でしっかりモニタリングしていくことで即応性のある介護計画の見直しができるようにしていきたい。 |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一日の暮らしぶりを記入するようなシートを活用しているが、書くことに関して個々に能力の差異があり、情報共有につながっていないことやモニタリングに活かす記録にはなっていないことがある。 | ○ | 個々のスタッフが書くことに慣れていくこと。その中から大切な情報を整理していく力を身につけていくようモニタリングの実践から気づきを向上していきたい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人およびご家族の身体的状況(例えば:歩けない、移動手段がない等)によっては送迎サービスを実施したり、可能な限り柔軟に対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 運営推進会議を通じて、民生委員の方の協力により、畑づくりの支援をいただくことが出き、認知症の人への理解は進んだが他の機関との連携においては出来ていないのが現状である。 | ○ | 運営推進会議において、ホーム側から様々な提案をしていくことで地域資源の活用につなげていきたい。 |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 現在利用しているサービスとしては、市が行なっているオムツの給付サービスを包括支援センターに依頼し、適用する方について利用して頂いている。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議にはセンター長の方に参加していただいている。また包括支援センターの開催する介護予防教室に関して資料提供等を行なっているが、情報交換等地域資源ネットワークづくりまでにはいたっていない。 | ○ | ホームも地域資源のひとつとして、包括支援センターと連携出来る点を模索しながらネットワークづくりを心掛けていきたい。 |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人および家族の希望に沿うよう医療機関は選択出来るようにしている。また協力医療機関による外来、往診の支援を必要に応じて受けられるよう配慮している。職員の通院介助および状況によっては家族同伴での受診への協力も行っている。 | | |

グループホーム喜成会

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | ○ | <p>近隣になかなか認知症に詳しい医師が居るかどうか分からないのが現状で、今後現在養成されている認知症サポート医の情報などを入手し検討していきたい。</p> |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | ○ | <p>医療との連携が不可欠故に、今後、看護師の配置もしくは訪問看護ステーションとの契約といった体制づくりが出来るよう法人内で検討していく必要があると考える。</p> |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | | |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | ○ | <p>早期から本人の希望と家族の希望を確認する文章を交わし、状況に応じた再確認をするなどの取り組みが必要と考える。</p> |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | ○ | <p>重度化に関してはスタッフ間でまだまだ認識の違いがあると思われるので、重度化する入居者へケアに関して意見交換していく場を設けていきたい。</p> |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | | |
| 51 | <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> | ○ | <p>言葉掛けにおいても、「どうしましょう」など問いかけや本人の行動等からどう支援するかを考えながら支援していくことを日々の中で徹底していくこと。(指示的な言葉掛けに注意していく)</p> |
| 52 | <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | ○ | <p>入居者の声にもっと注目し、その中でスタッフ間で出来る事を検討していく。また法人本部と話し合いスタッフの体制を安定させていく。</p> |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | ○ | <p>朝の着替えや入浴時の着替えを選ぶ場面を生活の中で見い出していけるよう個々のスタッフが意識をもって関わられるようにしていく。</p> |
| 54 | <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | | |
| 55 | <p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | ○ | <p>本人管理する方などに対しては体重増や日頃の食事量に注意しながら支援していくことも必要である。</p> |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄パターンを把握する事で、自力でトイレでの排泄が出来るよう支援している。また、排泄介助の前後の状態から柔軟に決めた時間だけでなく予測される時間帯を考え、誘導や介助を行なっている。 | ○ | 個々のスタッフが排泄の支援に関して、決めた時間に囚われることなく状況に応じたアプローチが出来るようこれからも検討していきたい。 |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 介護量やスタッフの人員などにより個々の入居者に沿った入浴の提供が出来ていない事があり、スタッフサイドで決められている事が多いのが現状である。希望がある方には入浴出来るようにしている。 | ○ | 限られた人員の中でも時間を日々の中で調整しながら、柔軟な対応が出来るよう工夫していきたい。 |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 個々の体力や状態に応じて居室で休んでいただく時間を設けたり、日中の活動から夜間の安眠につながるよう支援している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 暮らしの中で本人が生活感を持って過ごしていただけるよう、出来る方には積極的にアプローチしているが、入居者の重度化に伴いそれが難しくなっていることもある。(屋外に出掛けることなどが少し難しくなっている) | ○ | 外出機会を増やすためにどうしていくことが必要か、スタッフが出来るための工夫をしていける考え方を模索できるよう、生活の組み立てや状況把握に努めていきたい。 |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ホームの買い物時や個人の買い物においては支払いを行なうという場面をつくり支援するように心掛けている。個人で管理している方でも置忘れがあったりするが、安易に預かるようなことのないよう、本人の力を見極めながら支援している。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 畑まで出掛けたり、ゴミ捨てや散歩に行くなど日常生活の中で取り組んでいるが、最近スタッフ人員不足等により機会が減少している。 | ○ | 外出機会を増やすためにどうしていくことが必要か、スタッフが出来るための工夫をしていける考え方を模索できるよう、生活の組み立てや状況把握に努めていきたい。 |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | お寺参りなど少し遠出といった機会も少なく、個々の行きたい場所への外出は出来ない。家族会で昔よく利用した遊園地や公園といった遠足は企画したりはしているが十分ではない。 | ○ | 個々がいきたい場所やバックグラウンドから普段いけない場所を知り支援できるようなことも今後、単発的でも取り組んでいきたい。 |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話については訴えや家族のことを思い、淋しそうなど感じたら電話をかけ話せる機会をつくっているが、手紙を書くといったことは入居者の現状では出来ていないし、出来る方が少ない。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | ゆったりと過ごせる雰囲気づくりには常に心掛け、本人さんの居室以外でも共有スペースで他の入居者も含め、言葉掛けしていただくなどして過ごしておられるご家族もある。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束はおこなっていないが、新しく入ってきたスタッフに対して介護保険にける禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解する機会を設けていない。 | ○ | 介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解する機会を設けていきたい。 |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | エレベーターおよび非常階段の扉は日中解除し、出入り出来るようにしている。また、外に行きたいような言動あればスタッフが声掛けし気分転換を図れるよう支援している。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 常に入居者の位置に心配りし、居室内におられる方にも時間経過を見て混乱や不安がないのか、さりげなく声を掛けるよう支援している。夜間についても個々の入居者の状態に合わせ、安全確認するようラウンドし対処している。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 入居者の状態に応じて危険物の管理方法は検討し、通常は包丁や洗剤等の保管場所は固定した場所に決められている。また、異食などが見られたケースではスタッフが常時使用している文房具品に関しても安易に置かないよう注意を払うようにしている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 個々の心身の状態による予測されるリスクを理解し、防止できるような危険因子を排除するよう取り組んでいる。例えば歩行不安定な方がフローアのゴミを拾おうとすることに関して清掃や本人の行動に対する見守りなどを実施している。 | ○ | 個々のスタッフが状況における優先順位を適切に見極めていくためのマネジメントを強化していく。 |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 単発で外部での救命救急講習を受講する機会を提供はしているが全員には出来ていない。マニュアルはスタッフルームに常置しているが、スタッフにより経験の違いがあり、現場で活かせるかは、不安な部分はある。 | ○ | 個々で意識し講習会への参加も積極的に行なっていくよう促し、また法人内においても地元消防署の協力を得て、救命救急講習を開催するよう検討していきたい。 |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の立会いによる避難訓練、消火器の使い方等実施している。また運営推進会議の中でも災害に関する議題を示しているが具体的な地域との連携等にはまだつながっていない。 | ○ | 定期的な訓練や地域の方々と連携した災害対策がグループホーム単独ではなく法人全体として出来るよう今後、運営推進会議等活用しながら進めていきたい。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | ホームの支援していく方向性として、個々の入居者の状況によって考えられるリスクに対して説明を行い、ご家族にはご理解を得ている。それに対するスタッフ側の配慮していくことを現状に応じて、家族会や個別に話している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 個々の入居者の普段の状態をまずしっかり把握することを基本とし、暮らしの中で普段と違う言動や症状といったことに、気づきミーティングや管理者への報告、相談、関係機関への連絡へとつなげている。 | ○ | 個々の判断力を日々行なっている対応の中から、スタッフが自分のこととして捉え、その基準をしっかり備えていけるように気づきの共有化を図っていきたい。 |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | スタッフ一人ひとりが薬に関して理解出来ていないこともある。個々に処方箋コピーが整理されていない。また処方内容が変更があれば本人の状態観察を行い、随時状態報告を行いドクターの指示を仰ぐよう心掛けている。 | ○ | 服薬している薬の理解を深める機会や処方内容について、わかる処方箋のコピーを全入居者について整える。 |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 繊維質の食材を多く摂取していただいたり、水分補給(オリゴ糖の活用等)を根気よく行なうなど工夫している。しかし、個人差はあるが、全体的に運動量が少ないと考えられる。 | ○ | 運動機会が必要だとスタッフは認識しているが時間や人手のことで出来ていないので、そうした時間をつくる工夫をこれから考えて取り組んでいきたい。 |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | ほとんどの方について食後、洗面所にて個々のチカラに合わせて付き添いや介助で口腔ケアを実施している。その内、声掛けのみで確認できていない方と就寝前だけ実施している方がおられる。 | ○ | 声掛けのみで終わっている方に関しては、本人のプライドに配慮しながら確認出来るよう努めていきたい。 |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分摂取量についてはケア記録に記載し、個々の状態に応じて支援するよう努めている。また、咽たりする方や飲み込みの悪い方についてもトロミをつけたり、食材を細かくするなどの工夫をしている。 | | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 法人で作成したマニュアルで対応するよう、うがいや手洗い、普段の清掃等に努めてはいるが、細かい消毒や清掃等にまだ不備がある。インフルエンザ予防接種は毎年、家族の同意をいただき全員に実施している。 | ○ | 普段からの消毒や清掃といったことを日常の中に意識的に取り込んでいけるようにしていきたい。 |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | まな板やふきん、キッチン周りの清潔には努めてはいるが、出来ていない日もあり、不十分な点がある。 | ○ | 衛星管理に関して、管理者及びスタッフの意識を高めることが必要で今後、確実性を高めるようにしていきたい。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 構造上5階にあるということで難しい点もあるが、過去の外部評価から改善し、現在は下駄箱や衝立等を設置し工夫はしている。 | ○ | 今の形に固定化することなく、1階玄関口や彩光も含め検討していきたい。 |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個々の入居者が落ち着けるスペースを意識的設け、そのときどきで居場所を選べたり、生活の中での音や光など五感配慮を行なっているが不十分なこともある。また、入居者の状態変化によっても共有空間のレイアウト考え、柔軟に環境を整えるよう努力している。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 上記同様、パブリックスペース以外に廊下の日当たりのいい場所に椅子やテーブルを設置したり、簡易の畳スペースやパブリックスペースから少し離れた位置に椅子を置くなど個々の心身状態に対応出来るようスペースを活用している。 | | |

グループホーム喜成会

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みのあるダンスや椅子、個々が大事な思い出の品などを持ち込んでいただくように支援はしているが、新しいものを買ってこられるご家族もある。自室でテレビを観て過ごしたりされる方もある。居室づくりについてはまだまだ不十分と思われる。 | ○ | 入居後も馴染みの家具や思い出の品々を持ち込んでいけるようご家族や本人と話をし居室づくりをしていきたい。 |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 換気・空調の調整には現場スタッフに都度配慮するよう伝えてはいるが日によっては締めっぱなしや開けっ放しなど配慮に欠ける事があり改善が必要。 | ○ | 個々のスタッフが日常支援の中で入居者の立場でどうなのか？座っている位置と自分たちが動いている時との体感の違いなどを意識し配慮していけるようにしていきたい。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗濯干しの高さを調整したり、食事の下ごしらえ等の場所も広いスペースを設け動きやすいよう配慮したりしている。またソファについても低い物もあるが個々の身体機能に配慮してはいるが、十分な個別性が図れていない。 | ○ | 個々の身体機能に応じた椅子等を配置できれば良いと考えるがコストの問題もあり検討していきたい。 |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | センター方式の「わかること・わからないことシート」を活用し、個々に生活場面においてどのような時にわからなくて困っているかを把握するように努めているが、まだまだ工夫していかなければならない。 | ○ | 個々のスタッフが日々変わる入居者の状態を早期に判断し、場面ごとにアセスメントしチカラを発揮出来るような支援ができるように見極める力をつけていきたい。 |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 5階ということで難しい点もあるが、ベランダにプランターを置き花を植えたり昨年からは裏の駐車場の一角に菜園をつくり野菜づくりや草引きなどに取り組んでいる。(入居者家族・民生委員の方の協力) | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--------------------------------------------------|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

グループホーム喜成会

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---------------------------------------------------------|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | ○ | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | | ①大いに増えている |
| | | ○ | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | ○ | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・認知度の違いはあっても個々に優しさや相手を思いやる事が出来るよう、関わりを大切に日々の支援に取り組んでいます。また、食卓を囲むということに拘り、共同生活を行なっていく中でみんなが同じ場面で食を共有し、輪をもって和むような雰囲気作りに努めている。開設して8年目であるが、その間に介護保険施設へ住み替えになったケースはなく、可能な限り本人の身体機能を活用しながら、そして、スタッフがケア方法を工夫していくことでグループホームでの生活を継続していけるよう努力している。